

納得のエコ住宅づくり

地球環境にやさしい酒田の家

酒田は日本海に面した山形の都市である。冬は寒く横殴りの雪が降る。春先になると中国からの黄砂で洗濯物も乾せない。夏は一転して厳しい暑さが襲ってくる。そんな風土の中でコスモホームが志すのは「本物のエコ住宅」づくりといえはよいだろうか。

社長の柿崎圭介は大学で建築を学んだ建築士だが、建築を通じて「地球環境にやさしい酒田の家」を造りたいという志で起業したという。社名のコスモホームもコスモポリタンつまり一人の地球人として家づくりに携わりたいという思いから付けたものだという。それだけにコスモホームの家づくりは省エネあるいは環境への配慮が徹底している。

最近、ややもすれば「エコ」とか「省エネ」というのは時代の流行語として無定形に使われすぎる傾向がある。「エコ住宅」といえば人々の関心を集めることから実体のない「エコ住宅」が横行していると柿崎は憤る。「エコ住宅」を名乗るからには需要者に分かりやすい形でその内容を示し、効果についても約束する責任があるという。

コスモホームが請負う一棟一棟の住宅設計に当たっては、その都度「熱損失係数(Q値)」と「年間灯油消費量」を算出し、建築前にランニングコストの予測値を提示しているという。「エコ住宅」を標榜する限り、施工者は施主に対して性能効果についての責任を負うというコスモホームの態度は当然であるが、実行している施工者は少ない。

現在では国が定める次世代省エネルギー基準の二分の一以下という超高断熱住宅も施工できるといふ。近い将来必ず来るであろう低炭素社会に向け、二酸化炭素の排出量も計算して情報提供するなど、本当の意味での「省エネ住宅」(低炭素住宅)を先んじて研究し、実践しているのである。地球温暖化や石油コストの高騰といった難題を抱えて、家づくりにおいても地球視野の思想が必要なのかと思わせるコスモホームの家づくりである。

このように紹介すると「省エネ」一辺倒の家づくりと誤解を受けそうだが、そうではない。創業以来、柿崎と二人三脚で家づくりに取組んできた森保弘は収納や家事に精通し、ソフト面でお施主さんの暮らしやすさをデザインするアドバイスを行っている。暮らしやすく環境にやさしい家、新しい時代の家の姿といったらよいだろうか。



山形県・酒田市 コスモホーム一級建築士事務所

【施工者データ】

- ◆代表/柿崎 圭介
- ◆創業/平成 12 年
- ◆所在地/山形県酒田市下安町 18-15
- ◆電話/0234-26-9505 <http://www3.plala.or.jp/cosmohome/>
- ◆工法特徴/木造軸組みパネル工法(高断熱住宅)/断熱・耐震リフォーム



◆お施主さんの言葉

様々な工夫のある家（酒田市・高山拓さん）

家を建てるにあたっては、大手ハウスメーカーから地元の工務店まで一〇社以上を検討しました。私がコスモホームを選んだ理由は、断熱・気密性の基本的な住宅性能にこだわりながら、採光や間取り・デザインに様々な工夫があり、自分の家づくりのイメージと一致していたからです。建ててから一年経ちますが、お陰様で、今でも全く不満のない家で過ごすことができ、大満足です。

◆催し案内

エコ住宅見学会 コスモホームは住宅展示場や新聞折込み・チラシ等、余分な営業経費はできるだけ抑え、実際に施工したお客様の住宅を借りて見学会を催しています。最近ではホームページやブログを通じて家づくりの情報を発信しておりますのでご覧ください。

